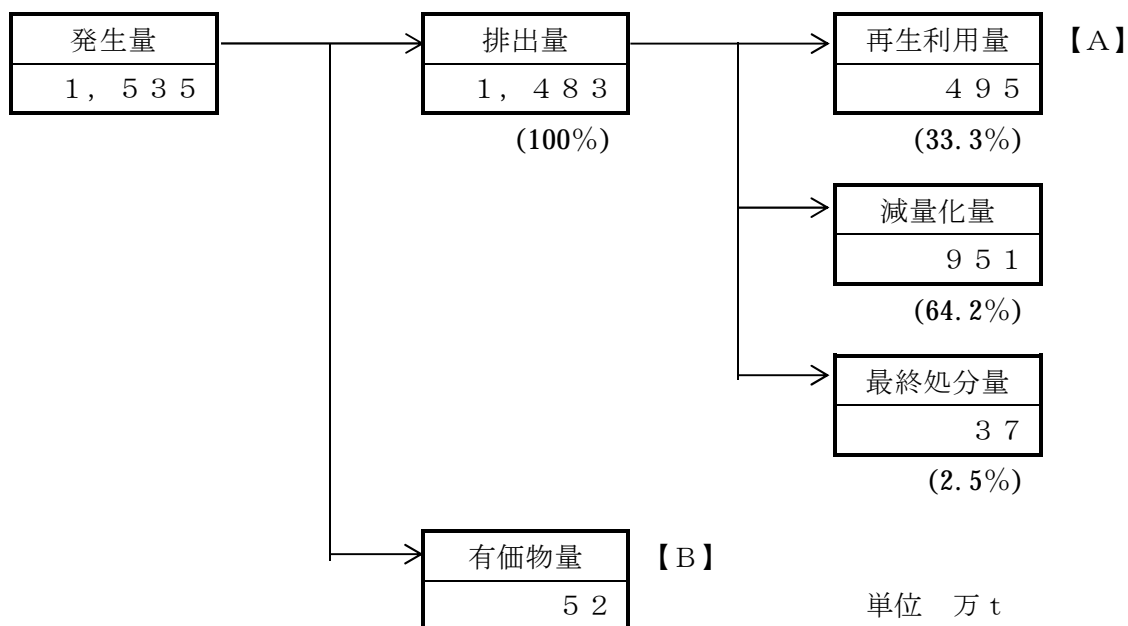


産業廃棄物の処理フロー、排出量及び再生利用量等の推移

1. 府内で排出される産業廃棄物の処理フロー

- ・府内で排出される産業廃棄物の処理のフローを図 3-3-1 に示す。
- ・府内の事業場・建設現場等で生じた発生量は 1, 535 万 t であった。
- ・発生量のうち、産業廃棄物としての排出量は 1, 483 万 t、他者に有価で売却した量が 52 万 t であった。
- ・排出量のうち、再生利用された量は 495 万 t (約 33.3%)、減量化された量は 951 万 t (約 64.2%)、最終処分された量は 37 万 t (約 2.5%) であった。

図 3-3-1 府内における産業廃棄物の処理状況 (平成 26 年度)

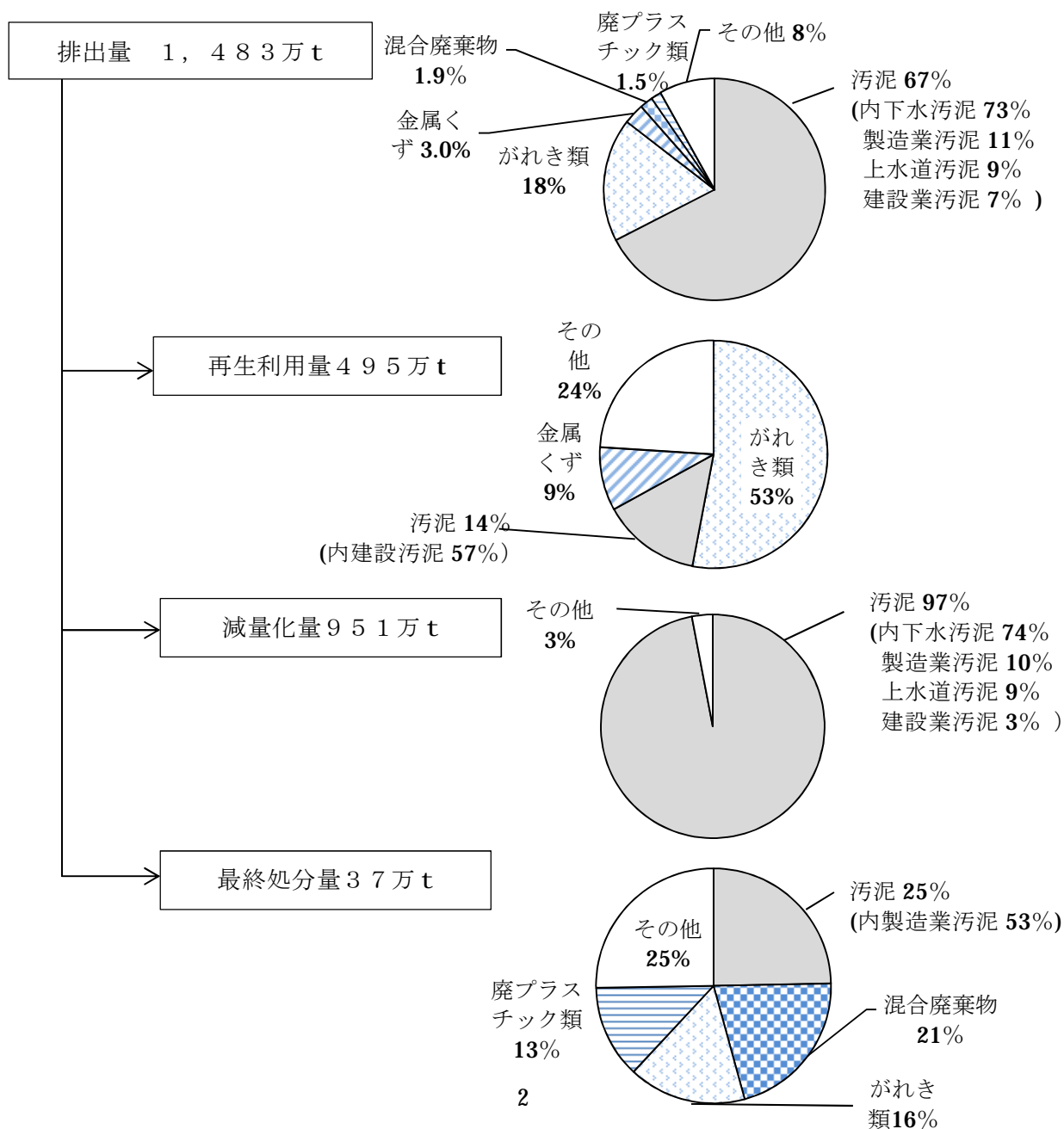


項目	定義
発生量	事業場・建設現場等で生じた不要物量
排出量	発生量のうち、有価物量を除いた量
再生利用量 A	排出事業者、処理業者等で再生利用された量
減量化量	排出事業者又は処理業者等の中間処理により減量された量
最終処分量	排出事業者と処理業者等の最終処分量の合計
有価物量 B	発生量のうち、中間処理されることなく、他者に有価で売却された量
A + B	発生量のうち、資源化された量 (有価物量と再生利用量の合計)

(1) 産業廃棄物の処理段階における種類別内訳

- 産業廃棄物の処理の各段階における種類別の内訳を図 3-3-2 に示す。
- 産業廃棄物の排出量では、汚泥が約 67%、がれき類が約 18%、金属くずが約 3%、混合廃棄物が約 1.9%、廃プラスチック類が約 1.5%、その他が約 8%という割合となっている。
- 排出された産業廃棄物のうち、495万t(約33.3%)が再生利用されている。がれき類は路盤材等に、汚泥はセメント原料等に、金属くずは鉄鋼原料等に再生利用されている。
- 再生利用がなされた部分を除いた産業廃棄物は、脱水や焼却処理により951万t(約64.2%)の減量化処理がなされている。
- 残余の産業廃棄物37万t(約2.5%)が埋立により最終処分されている。最終処分量の内訳は、汚泥が25%、混合廃棄物が21%、がれき類が16%、廃プラスチック類が13%である。

図 3-3-2 府内における産業廃棄物の排出量等の内訳 (平成 26 年度)



(2) 産業廃棄物の種類別の処理状況

- ・産業廃棄物の種類別の排出量を図 3-3-3 に、種類別の再生利用、減量化、最終処分の比率を図 3-3-4 に示す。
- ・再生の割合が高いのは、がれき類、金属くずであり、これらは建設資材や金属原料として利用用途が確立されている。
- ・汚泥、廃油、廃酸・廃アルカリは、液体分が多いため、脱水等による減量化の割合が高い。
- ・最終処分の割合が高いものとして、ゴムくず、燃え殻があげられる。

図 3-3-3 産業廃棄物の種類別の排出量

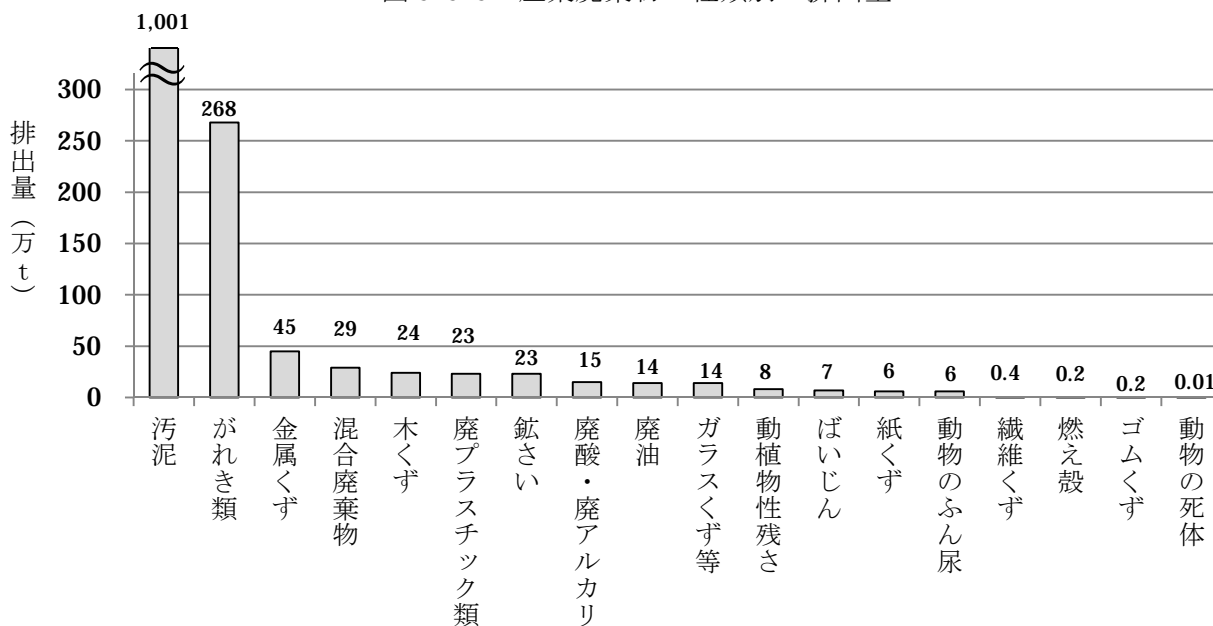
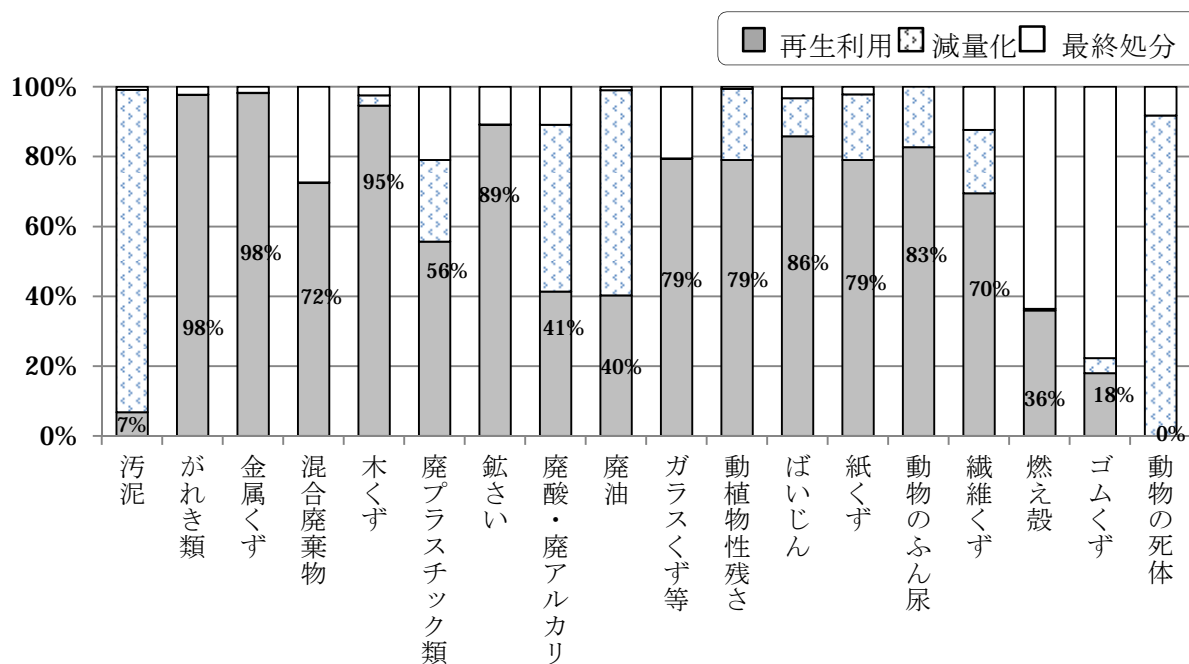


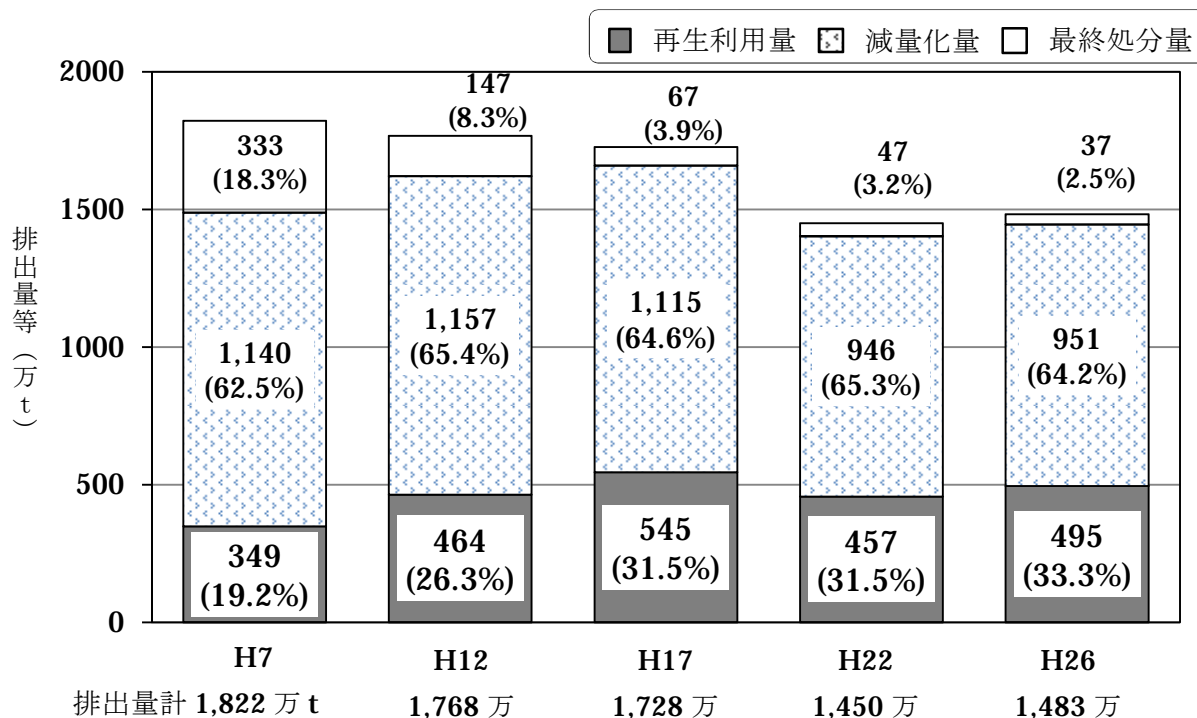
図 3-3-4 産業廃棄物の種類別の処理状況



2. 産業廃棄物の排出量、再生利用等の推移

- ・産業廃棄物の排出量、再生利用量、減量化量、最終処分量の推移を図 3-3-5 に示す。
- ・排出量は、長期的に減少しているが、平成 22 年度から平成 26 年度にかけては横ばい傾向である。
- ・再生利用量は、長期的には増加しているが、近年は横ばい傾向である。排出量の減少に対して再生利用量が増加したため再生利用率も上昇してきたが、近年は横ばい傾向になってきている。
- ・減量化量は、減量化率が約 65%前後で変化していないため、排出量と同様の推移を示している。
- ・最終処分量、最終処分率とも長期的には大幅に減少している。平成 7 年度から平成 17 年度までは 5 年ごとに半減してきたが、その後は減少幅が緩やかになってきている。

図 3-3-5 産業廃棄物の排出量、再生利用量、減量化量、最終処分量の推移



3. 全国、東京都との比較

- ・大阪府(H26実績)の産業廃棄物排出量の種類別の割合と産業廃棄物の処理状況を、全国平均(H24推計)及び東京都(H24実績)と比較した。
- ・全国平均とは、排出量の種類別の割合も異なり処理状況も異なる状況であった。
- ・排出量の種類別の割合が比較的近い東京都の処理状況と大阪府の処理状況はほぼ同じ傾向であった。

表 3-3-1 全国、東京都、大阪府の排出量の種類別の割合及び処理状況

	産業廃棄物排出量の種類別の割合	産業廃棄物の処理状況
全国平均 (H24) 排出量 合計 37,913 万 t	<p>ばいじん 4% 鉛 4% がれき類 16% 動物のふん尿 23% その他 10% 汚泥 43% (内下水汚泥 46%)</p>	<p>最終処分 3% 減量化 42% 再生利用 55%</p>
東京都 (H24) 排出量 合計 2,357 万 t	<p>ガラスくず 3% がれき類 20% その他 6% 汚泥 71% (内下水汚泥 79%)</p>	<p>最終処分 4% 減量化 66% 再生利用 30%</p>
大阪府 (H26) 排出量 合計 1,483 万 t	<p>混合廃棄物 1.9% 金属くず 3.0% がれき類 18% その他 10% 汚泥 67% (内下水汚泥 73%)</p>	<p>最終処分 3% 減量化 64% 再生利用 33%</p>

出典：(全国) 産業廃棄物排出・処理状況調査報告書 (H27.3 環境省)

(東京) 東京都産業廃棄物経年変化実態調査報告書 (平成 24 年度実績) (H26.12 東京都)

※本部会でお示しする平成 26 年度産業廃棄物実態調査のデータは、現時点における速報値であり、今後、変わる可能性がある。